

1. はじめに

土橋遺跡には上面・下面があり、それぞれ時代が違う遺跡が重なっています。上面は約 1,000 年前の平安時代、下面は約 4,000 ～ 3,500 年前の縄文時代後期前半の遺跡になります。

前号のたよりでは、遺跡上面で発見された「大型建物」を紹介しました。上面の調査は 10 月末に全体撮影を行い、無事に終了しました（第 1 図）。

今回は下面の状況について報告します。



第 1 図 上面の調査のようす

2. 下面の状況

下面の遺跡は、上面よりも 30 ～ 50 cm ほど下に埋まっています。本格的な下面の調査はこれから始まりますが、トレンチ（試掘坑）などから事前に状況を確認しました。

地面下には、上面とはまったく異なる黒色土が厚く堆積しています。黒色土のなかには大量の土器や石器が含まれています（第 2 図）。それらの土器を詳しく調べると、黒色土が約 4,000 ～ 3,500 年前の 500 年間に堆積した土であることがわかりました。この黒色土を取り除くと穴のかたちが見えてきます。これが縄文時代の人びとの生活痕跡になります。

残念ながら、まだ生活痕跡の詳しい様子はわかっていません。しかし、地面に穴を掘って土器を埋める「埋設土器（まいせつどき）」（第 3 図）や地面が赤く焼けた跡（第 4 図）などが見つっています。

今後の調査で、縄文時代の人びとが暮らした住居や墓、マツリの方など様々な生活痕跡が見つかるものと思われます。



第 2 図 下面の遺物出土状況



第 3 図 埋設土器



第 4 図 地面が焼けた跡

3. 下面から出土するもの

下面に厚く堆積した黒色土は、すべて土のう袋に回収して、フルイを用いて水洗作業を行っています。現場作業で見逃してしまう微細な遺物を発見するためです。

ある場所からは、骨がたくさん出土しました。骨は大型のものが目立ち、白色で焼かれた骨であることがわかります。この場所では骨のほかに、土偶（どぐう）の一部、ネックレスに用いられた軽石製の玉も見つかっています。一方、別な場所では、狩りに使う弓矢の先につけた矢じり、クルミなどの木の实、石器を作る際に出る石クズがたくさん出土しています（第5図）。

このような場所による出土物の差は、遺跡の中に「日常の場」と「非日常の場」など様々な場所があることを表しています。土橋遺跡は大きなムラだったのかもしれませんが。

土を回収した場所は全体のほんの一部です。これから始まる下面の調査で、より具体的な様子を明らかにしたいと思います。



骨



土偶



軽石製の玉



弓矢の先につけた矢じり



第5図 出土遺物



クルミ

4. 小学生の遺跡見学

10月29日（火）に堀越小学校6年生の皆さんが見学に来ました（第6図）。発掘作業中の平安時代の大型建物の中に入って、その大きさを体感しました。現場事務所では、土橋遺跡のほか、これまでに調査を行った土橋北（どばきた）遺跡・村北（むらきた）遺跡などの出土品を間近に見ました。教科書に載っているホンモノと似たものが、自分たちの身近にあることに、とても驚いていたようです。



第6図 遺跡見学のようす